



Common Criteria Recognition Arrangement
Management Committee

運用手順

題名: 認証書の有効性
管理: CCDB
識別子: 012
バージョン: 1.0
ステータス: 最終
発行日: 2021年9月30日
承認: CCMC

令和5年12月 翻訳第1.0版

独立行政法人情報処理推進機構
セキュリティセンター
セキュリティ技術評価部

課題定義

コモンクライテリア認証書はこれまで、取り下げられない限り、制限のない有効期間で発行されてきた。そのため、一般利用者、調達者、規制担当者は、認証製品が具体的な状況下で使用に適しているのか、特に継続的な使用に適しているかどうかを判断する方法がなかった。実際、意図された使用環境と攻撃者のノウハウの両方が時間の経過とともに発展し、認証製品が使用に適さなくなる可能性がある。しかし、特に脅威の環境が時間とともに発展している場合には、リスク管理者や認証機関が、新たな環境における製品の妥当性を判断できることが、特に重要である。

CCDBは2019年6月1日付で相互承認された認証書の有効性を時間的に制限する決議を承認した。

本文書は、ベンダ、リスク管理者、及び認証機関に対し、認証書の有効性に関する情報を提供する。また本文書は、CCRA承認の認証書の有効性に関してCCRA加盟国が実施すべき最低限の要求事項を定めている。本文書は、CCRA加盟国が認証書に対し有効性の制限を設けるにあたり、さらなる要求事項を設けることを排除しない。

認証書の有効性

認証書は、発行された時点で製品が到達した保証レベルを示すものである。脅威の環境が時間とともに発展すると、新たな攻撃に対する製品の耐性は認証書による有効性の確認ができなくなる。言い換えれば、認証書は発行時にのみ技術的に有効であると考えられる。実際、攻撃手法に関する最新技術の発展は予測できないため、認証書の技術的な有効性に関連する期間は存在し得ない。認証製品の使用およびその運用環境を決定するためのリスク管理プロセスを実施することは、利用者およびリスクの所有者の責任である。

それでも、認証書には明確な有効期間を設けるべきである。前述のとおり、ここでいう有効性とは、技術的な有効性、すなわち製品の攻撃への耐性に関連するものではなく、管理上の有効性として理解されるべきである。管理上の有効性とは、CPLでの認証書の公開や評価に関する証拠資料のアーカイブなどの管理業務に関連するものである。デフォルトの有効期間5年は、認証機関の要件とビジネス要件とのバランスがとれていると考えられている。このデフォルトの有効期間は、特定のPPに対してCCDBレベルで調整することができる。

認証書のアーカイブ

デフォルトの有効期間を定めた CCRA 決議に従って、認証製品リストに表示される認証書は、有効期限が延長されない限り、5 年（または特定の PP について CCRA が定めた対応する特定期間）を超えて表示されることはない。有効期限が満了した認証書は「認証製品アーカイブ」リストに移動される。

アーカイブされた認証書は、もはや有効であるとはみなされない。

ただし、認証製品リストまたは認証製品アーカイブリストで認証書が参照されていることは、潜在的新規顧客に対して関連製品自体の入手可能性を示すものではないことに留意すべきである。

保証継続

認証書の有効期限は、再評価プロセスを用いて延長できる。再評価により、認証製品の更新された信頼性、より正確には最先端の技術開発を考慮した攻撃への耐性の信頼性を確立することができる。肯定的再評価を受けた場合、認証書の有効期限は 5 年間（または特定の PP について CCRA が定めた特定期間）延長される。

その原則は合意されているが、このプロセスの詳細については、CCRA メンバーが一貫して実施できるように、CCDB がさらに検討する必要がある。

再評価プロセスは、保証継続（2012-06-01）の将来のアップデートで定義される。

有効期限の宣言

有効期限日は、認証書または認証報告書に記載されなければならない（すなわち、有効期限：< 認証日 + x 年 >）。

認証書または認証報告書は、認証書の有効性の定義に関して、本手順を参照しなければならない。

CB（認証機関）または CCRA のウェブサイトに掲載されている認証製品リストに、認証書の有効期限日を明記しなければならない。